



# ぶどう特報

No.8 H29. 7. 28

J A 中野市営農センター

J A 中野市ぶどう部会

◆梅雨明け7月19日（昨年比-2日）

◆梅雨明け以降連続した降雨により、「黒とう病」や「べと病」の発生が確認されています。  
被害部位（粒・新梢・葉）は、徹底的に切除し、園外にて土中に埋めるなどの処理を徹底して下さい。  
農薬は定期散布に努め、散布量についてもたっぷり散布するよう努めて下さい。

（7/22 現在・巨峰・須坂果樹試）

露地生育状況	H29	前年比	平年比
横 径	21.7mm	86.6%	96.4%
縦 径	23.5mm	86.8%	94.6%

## 【第9回ぶどう農薬散布】

散布時期	7月下旬～8月上旬（袋かけ直後の防除から10日後）				
散布薬剤	水	100ℓ	散布日	月	日
	ICボルドー66D	2.5kg			
散布薬剤	テルスター水和剤	100g	散布量		ℓ
	ビクマグ（葉面散布剤）	100g			
散布量	* ICボルドー66Dに代えてボルドー液を作成する場合は、展着剤を水100ℓあたり20ml加用し、「4-4式（生石灰400g・硫酸銅400g）」とする。				
適用病害虫	たっぴり 400ℓ 以上				
注意点	ベと病・晩腐病・さび病・チャノキイロアザミウマ				
注意点	<b>※テルスター水和剤の加用は散布直前の混用とする。スリップス（クモ、やぶ蚊）発生園</b> ① ICボルドーに代えて4-4式ボルドーでもよい。（※下記作成方法参照） ② 建物・ハウス等への農薬汚れが心配な場合はICボルドー66Dに代えて、コサイド3000の2,000倍 または ムッシュボルドーDF 500倍を散布してもよい。（収穫時農薬の粉立ちがしにくい） ③ ハダニ類発生園はピラニカ水和剤2,000倍（収穫30日前まで、1回）を直前混用して散布する。 ④ ベと病発生園は、ICボルドー66Dに代えてゾーバックエニケード5,000倍（収穫14日前、2回）を散布する。 ⑤ ボルドー液散布の際は、近隣の畑に飛散しないよう散布する。（汚れ・もも・プラム等への薬害注意）				

## 【※4-4式ボルドーの作り方（水100ℓに対し硫酸銅400g、生石灰400g）】

- ① 生石灰に生石灰の3倍重量の水をまぜて消化させ、温度が下がるまで放置する。（火傷、火事注意）
- ② 消化した石灰に全水量の1～2割（10～20ℓ）の水を加え、石灰乳とする。
- ③ 硫酸銅をバケツ1杯程度のぬるま湯でよく溶かし、残りの全水量（80～90ℓ）に溶かす。
- ④ ②の石灰乳に③の硫酸銅液を攪拌しながら徐々に加えて100ℓにする。

## 【第10回ぶどう農薬散布】

散布時期	8月上旬～8月中下旬				
散布薬剤	水	100ℓ	散布日	月	日
	ICボルドー66D	2.5kg			
散布薬剤	ビクマグ（葉面散布剤）	100g	散布量		ℓ
散布量	* ICボルドー66Dに代えてボルドー液を使用する場合は、展着剤を水100ℓあたり20ml加用し、「4-4式（生石灰400g・硫酸銅400g）」「ワインぶどう4-2式（生石灰200g・硫酸銅400g）」とする。				
適用病害虫	たっぴり 400ℓ 以上				
注意点	ベと病・晩腐病・さび病				
注意点	① 建物・ハウス等への農薬汚れが心配な場合はICボルドー66Dに代えて、コサイド3000の2,000倍 または ムッシュボルドーDF 500倍を散布してもよい。（収穫時農薬の粉立ちがしにくい） ② アメシロ・スカシバ発生園はアディオ水和剤2,000倍（収穫7日前まで、5回）を散布する。 ③ アザミウマ類、カメノミ類、アザミウマ発生園は、イカズチWDG1,500倍（収穫7日前まで、5回）を散布する。 ④ 死角、園地外周等散布ムラのない様に散布する。 ⑤ 防除の際、隣接地がアスパラガスの場合は事前に園主へ連絡してください。 ⑥ ボルドー液は、もも・プラムに薬害が発生するので隣接園は絶対かからないようにする。				

農薬散布の際は、必ず栽培日誌へ記入し、出荷の前に必ず提出できるよう整理を進めましょう。